

福津市合併

合併から
10年が経過して



国が推し進めた平成の大合併という変革は、旧宗像郡に属していた旧福岡町と旧津屋崎町にも及びました。そして2005年1月24日、地方分権の推進や少子高齢化の問題を抱えて、旧両町は合併しました。合併して10年が経過した今、合併は私たちに何をもたらし、この先何が必要とされるのか特集してみました。

合併までの道のり

平成14年8月30日	旧津屋崎町で合併協議会設置の直接請求が行われる
平成14年12月1日	「福岡町・津屋崎町合併協議会」が発足
平成15年9月6日 11月30日	旧両町でそれぞれ「合併シンポジウム」を開催
平成15年11月25日 12月16日	旧両町の各地域で住民説明会を開催
平成16年2月22日	旧津屋崎町で「福岡町との合併の賛否と枠組みを問う住民投票」が行われる
平成16年5月28日	合併協定書調印式が行われる
平成16年6月7日	旧福岡町、旧津屋崎町議会で合併議案が議決される
平成16年7月12日	福岡県知事に「廃置分合申請」を提出し、合併を申請する
平成16年11月12日	総務大臣の告示により、福津市誕生が正式に決定
平成17年1月16日	旧福岡町、旧津屋崎町閉町式を開催
平成17年1月24日	福津市が誕生

なぜ合併という道を選択したのか

地方分権の推進

市町村は、自らの考えと力で地域の課題を解決し、質の高い住民サービスを行う時代を迎えました。これを実行するためには、行財政基盤や政策立案能力の強化が求められるため、専門的知識を有した人材の確保や育成に努めなければならなくなりました。



少子・高齢化の進行

少子・高齢化が進行し、働く世代の人口の減少が予測されました。そして、保健、福祉、医療などのサービスを受ける人が増えると、行財政規模の小さな自治体では行政サービスの維持が困難だと考えられました。



日常生活圏の広域化

道路交通網の整備や情報通信の発達に伴い、地域住民の生活圏は著しい広がりを見せていました。さらに行政面でも、旧両町は消防・救急業務や、水道の供給、ごみ・し尿の処理を共同で行っていました。



行財政の効率化

国や地方の財政は厳しさを増し、地方交付税や国庫補助金の見直しが進められていました。一方では、下水道をはじめとした生活環境の整備などの行政需要への対応の課題もあり、効率的な行財政運営が必要とされていました。



合併協定書調印式が行われる(平成16年5月)



合併シンポジウム(平成15年9月)



福津市が誕生(平成17年1月)

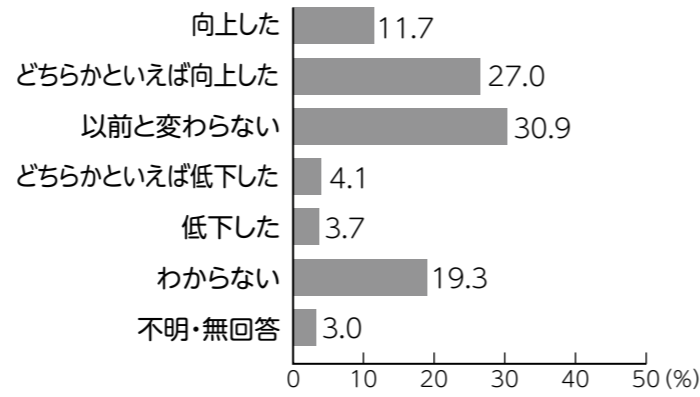


福岡県知事に合併を申請する(平成16年7月)

調査③ 地域のイメージ

Q 地域(福津市)のイメージについて、合併前と比べてどのように感じますか。(選択肢から1つ回答)

A 肯定的回答(合計38.7%)が否定的回答(合計7.8%)の約5倍でした。



予測と成果

地域のイメージの向上

新市将来構想に掲げられた合併の効果(抜粋)	主な成果
旧両町の観光資源を活かした観光の活性化	鯛茶づけフェアなど海岸線を活かした事業の実施
新たな企業の進出や若者の定着、雇用の場の創出	福間駅東地区整備に伴う人口増加や商業施設進出

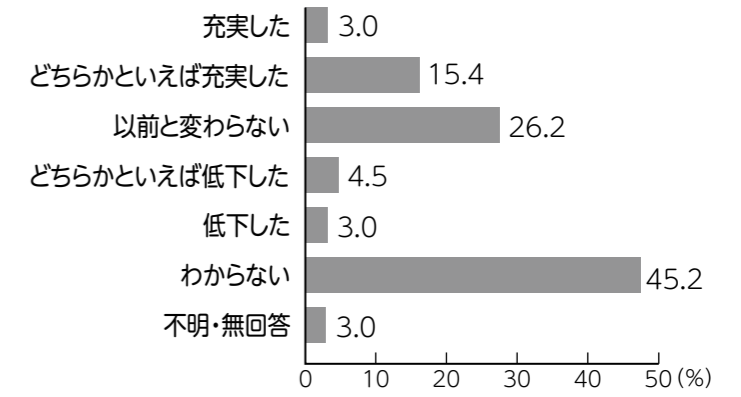


▲観光情報ステーションや観光名所等へ案内するサインが整備されました

調査① 福祉サービス

Q 福祉サービス(子育て、保育所、介護保険、健診・検診、障がい者福祉など)について、合併前と比べてどのように感じますか。(選択肢から1つ回答)

A 肯定的回答(合計18.4%)が否定的回答(合計7.5%)の約2.5倍でした。



予測と成果

充実した福祉サービス

新市将来構想に掲げられた合併の効果(抜粋)	主な成果
高齢者や障がい者サービスの拡大実施	サービス実施地域の拡大など
保育所選択の幅の拡大	旧町間を超えた入所及び保育所数の増加



▲大和保育所では保育室の増築が行われました

合併検証

合併前、両町で設置した合併協議会において、新市の将来構想が検討されました。そして、合併の効果として①充実した福祉サービスが受けられる②公共施設の利便性が向上する③地域のイメージが向上する④財政の効率化が図られるの4項目が掲げられ、旧両町民にその内容が説明されています。合併後10年が経過し、当時掲げた合併の効果は実際どのようになったのか、その成果を検証するとともに、昨年行ったまちづくり市民アンケート調査の中で、合併前から旧福間町、旧津屋崎町にお住いのかたを対象に、この4項目に対する評価を調査し、検証を行いました。

4項目のうち、「福祉サービスの充実」「公共施設の利便性の向上」「地域のイメージの向上」の3項目については、新市将来構想に掲げる合併の効果に沿った成果を上げており、まちづくり市民アンケート調査結果においても市民から一定の評価を受けています。

一方、「財政の効率化」については、職員削減による人件費減と国・県からの各種財政支援額など合わせて約179億円の財源確保につながっていますが、まちづくり市民アンケート調査結果からみると、その効果が市民にはあまり実感されていないようです。

問い合わせ 福津市行政経営企画課(福間庁舎) ☎43・8121

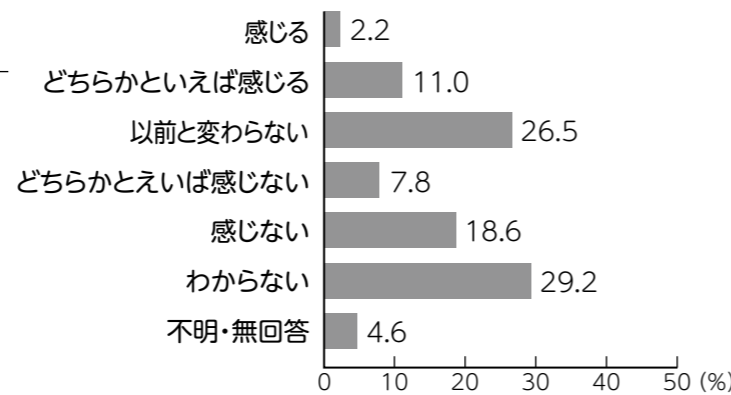
アンケート結果報告

- まちづくり市民アンケート調査
 - ・調査対象：無作為に選出した18歳以上の市民2,000人
 - ・調査時期：平成26年11月～12月
 - ・調査方法：郵送による配布、回収
 - ・うち合併の効果の質問に対する回答数：845通

調査④ 財政の効率化

Q 合併による財政の効率化や財源(市の収入)の確保により、市民サービスが向上した、また生活環境が良くなったと感じますか。(選択肢から1つ回答)

A 否定的回答(合計26.4%)が肯定的回答(合計13.2%)の約2倍でした。



予測と成果

財政の効率化

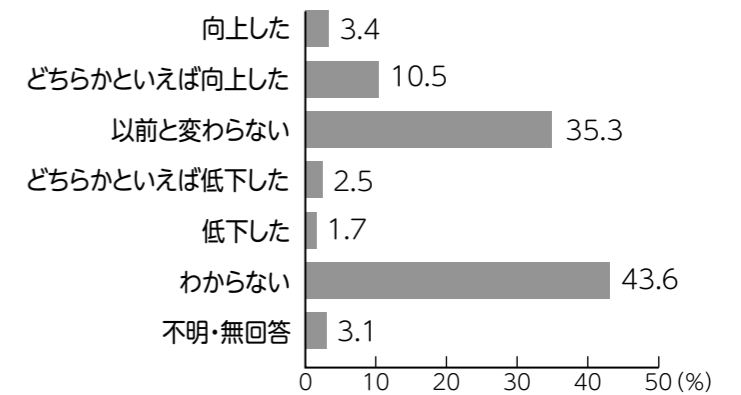
新市将来構想に掲げられた合併の効果(抜粋)	主な成果
特別職・一般職員・議員人件費の削減	10年間で約20億円の削減
国・県からの各種財政支援	併せて約159億円の財源確保



調査② 公共施設の利便性

Q 公共施設(カメラホール、中央公民館、大規模公園、ふくとびあ、小・中学校など)の利便性について、合併前と比べてどのように感じますか。(選択肢から1つ回答)

A 肯定的回答(合計13.9%)が、否定的回答(合計4.2%)の3.3倍でした。



予測と成果

公共施設の利便性の向上

新市将来構想に掲げられた合併の効果(抜粋)	主な成果
旧町間を越えた公共施設の利用	旧町間を越えた施設利用料金の値下げ
生活実態などに見合った通学区域の設定	宮司地区の一部で小中学校選択制を実施



▲大規模公園ではサービス向上のため指定管理者制度が導入されました

旧両町の間を流れる手光今川に架けられた「出会い橋」



どうなる？ 今から福津市

福津市の置かれている現状
合併後、市を取り巻く状況は大きく変わってきました。合併しなかった場合を考えると、国からの交付税の減少や働く世代の減少、社会経済情勢の悪化、公共施設の老朽化の進行などから、行政サービスや生活環境の水準が現状よりもかなり低下していた可能性があります。

そして、今後も厳しい状況は変わりません。合併後10年が過ぎ、合併に関する財政支援は区切りを迎えました。平成27年度から地方交付税の特例措置も、今後5年間で徐々に減額されるなど、市の財政はより厳しくなります。今後必要な行政サービスを維持し、元気で住みよい福津市を目指し、これまで以上に合併効果を発揮しながら市政運営を行う必要があります。

市長に聞く！
福津市が誕生してから10年が経過しました。この間、できる限り市民サービスや公共施設の質と量を維持しながら、削減した人件費と合併に関する財政支援を財源として活用し、まちづくりを進めてきました。人口や商業施設の増加につなげられたことは合併後の大きな成果だと考えています。また、合併以降の重要課題であった市役所庁舎の統合の道筋が立ったことも、大きな前進の一つです。

一方で、高齢社会の到来や生産年齢人口の減少、変わりゆく社会経済情勢、公共施設の老朽化の進行など、全国的な問題の波は近い将来福津市にも訪れ、市を取り巻く状況は今後さらに厳しさを増して



いきます。これらにどうやって立ち向かっていくか、これからの大きな課題です。自治体経営の原則である「最少の経費で最大の効果をあげる」ことを念頭に置き、さらなる行政改革に取り組みする必要があります。

福津市は、JR鹿児島本線や国道などの広域交通幹線が通る利便性の高いまちです。さらに海岸線をはじめとした豊かな自然と宮地嶽神社や津屋崎古墳群、津屋崎千軒、国民健康保険の源流である「定礼」発祥の地などの歴史・文化的遺産を有するまちでもあります。そういったわがまちの財産を私たちの手で大事に「守り、育て」ながら、これらを生かして人を「呼び、招く」ことで活性化につなげ、元気で魅力ある福津市づくりに取り組んでいく必要があると考えています。



農業に携わり津屋崎町学識経験者として合併協議会委員を務めた農業委員会 会長

上妻 司さん

合併当時を振り返り

「これから先は合併せんとやっっていけん」とじゃないかねえ」という気持ちを持って合併協議会に参加してました。当時から高齢化の問題など、合併し自治体の規模を大きくしなければ、乗り越えられない問題が出てくるだろうと考えていました。いろいろと施策は有るかもしれないが、何より両町の良いところを持ちあって、合併をしなければならぬと思いました。

福津市が今後抱える課題は

福津市が誕生し10年がたちます。行政分野での合併は進みました。しかし、市民の中には「旧津屋崎、旧福岡」と

いう考えが残り、気持ちの部分はまだまだ合併しきれない部分が見受けられます。住民の意識を変えることは時間がかかるかもしれませんが、「福津市民」として前に進もうという考えを持つことが大切だと思います。

また、これから先は高齢化やそれに伴う財政的な部分が大きな問題となるでしょう。特に財政の面では厳しさが増し、お金をかけられる部分は限られてくると思います。しかし、住民の生活を守るということは必ず考慮しなければならぬことです。要るものと要らないものの整理をきちんとし、福津といえは「これだ」といった魅力を作りださなければならぬと思います。

「これから先は高齢化やそれに伴う財政的な部分が大きな問題となるでしょう。特に財政の面では厳しさが増し、お金をかけられる部分は限られてくると思います。しかし、住民の生活を守るということは必ず考慮しなければならぬことです。要るものと要らないものの整理をきちんとし、福津といえは「これだ」といった魅力を作りださなければならぬと思います。」

合併検証インタビュー

合併して分かったこれからの課題

合併当時を振り返り

他の市町村の合併をニュースで耳にしていたのですが、福岡町が合併に向かっているという話を聞いたときは「まさかこの町も」と驚きました。しかし、行政・財政改革を必要とされていた時代でもありました。障がい者福祉に携わる立場から見ても、一つの町だけでは立ち行かなくなるのではと危機感を持っていました。

福津市が今後抱える課題は

合併して市になってから、まちはきれいに整備され、福祉への理解もかなり進んだと思います。しかし、障がい者福祉に携わる身として話をさ



障がい者福祉に携わり、福岡町学識経験者として合併協議会委員を務めた障害福祉事業所 福岡サンテラス 理事長

小峯 壽々子さん

せていただくのと、暮らしの場に出たときに、どうしても問題に行き当たってしまったと思います。

私たちの暮らし環境は、重い障がいを持った人でも楽しく過ごせるまちになって、はじめて「だれもが住みやすいまち」となるはずですが、そして、それを実現するためには、障がいを持つ人自身やその家族、地域の人と行政が力を合わせ、みんなで支え合える環境づくりを必要とします。

このような暮らしの環境をつくることは、市の魅力を強めることにもつながります。だれもが、この福津市に住みたい、住み続けたいと思えるような環境づくりに、積極的に取り組むことが重要だと思います。